

三則論題譯解

三則論題譯解序

布教の盛衰興廢を見て。教職の学才

の浅深と其勉不勉をしるに足れり。こゝに岐阜

県下布教の盛なる事の他県に耻さるは。高

木真蔭あるか故なるへし。此人素より知己に

あらされど。去年其職に補せられしより。

屢々言せしをもて。早く其志の同じきはしれた

ひとりしを。ことし六月同しく京にめされ

て。はしめて面話することを得たり。然るうへ

教正にも列りければ。懇親の情も浅からず。

語ふに一日その著せる三則論題譯解

を示せり。蓋その論皆日用切迫の事にして。

彼神学者流の索強ケン附会して迂濶なるも

のゝ類にはあらされは。此書を得たる歓喜

涯なし。先に田中権少教正の三條演義は

既に世に公にして其筋の益をなす事

少からぬを。今又此書を刻して彼演義に

併せて布教の用に供せは。教職の目的を一にして多岐なからしめ。其益いよ／＼多かるへし。

おのれかく益あるをしりて。黙過に

忍ひされは。真蔭を勧めて。此書を

公にすることとはなりぬ。

明治六年八月

大教正從五位千家尊福

右依需正二位綾小路源有長書之

行年八十三歳

自序

やつかりさきに岐阜県管内神官教

導職管事のおほせことうけたまは

りし時。各宗のおなじ、おほせことかゝふり

し僧侶と。はかりごちてをしへのをぢ

／＼をあげつらひけらく。此の

皇大御国はも。いにしへはことあけせ

ぬ国と。いひつぎかたりつき来つるを。

いまはしも外国の交信のいやひけにあ

る物に事に年月にひらけゆく大御代

となりぬれば。ことあげせてはえあらぬ

は。おのづからなる理なるものから。そのお

ほかたの世の。ことあげのおもふきを思へは。

支那に印度におのがむぎ／＼。他国をたふ

とびてかへりて。皇国をば教なき国と

し野蛮とおとしむるあげつらひのかつ／＼

みえて本を末にし。外を内にするたぐひ

少からず。いはば孔明は楠正成に似たり。関

羽は加藤清正の如しとやうにいふべきを。

楠正成は孔明に似たり。加藤清正は関

羽のことしとやうにいふひとぞ多かりける。さる

ことそしも。ことあげいふべくもあらぬ小

細けき事にしあれど。世の中の説おほかたは

かうやうのこのみ多かれば。汝等のこゝろ
しらひしてよといへば。僧侶のこたへて実
にしかなり。吾曹もいままで只管に虚無
寂滅の宗旨をのみ無上たふとき教とおも
ひをれりしは。いとうらはづかしき事
とは。こゝろつけるものから。いまだかゝる
めでたき大御世にあひまつらねば宗部
の束縛をのがれえず。神の賦分たまひ
つる。真心のありのまゝなる実の理をは
おもふままにもいひえでありき。今はよ。教
部省に神官僧侶の差別なく。すべ
しらして各司を教職に任たまへば。年
ごろおもふふしを。いひあげつらひて。いかで
皇上と神祇との恩頼の千万のひとつを
もむくひてしがと。あなたふときかも。かく
てこそ我修し仏法も印度の仏法には
あらで。皇国の王法となりなめとかたる
ことのいともうれしかれば。さらばいで

汝等のいふまにまことばかりせなとて
県社なる伊奈波神社の頃なるやつかりを
寓居にそのひとくをつとへたりしとき。真
宗本願寺派及仏光寺派専修寺派ノ管事
なる舟橋了要かいひけらく。わがすぶる
僧侶にも。此おもふきを。きかせてよと。
せちにこひたりき。故いなむも道の
ためならずと。一月二十四日のひより
三日のほどその部下の僧侶にとき聞えた
りしを。こゝろとき僧侶のはやくも聞
書といふものにして。ひとへの巻めく
ものと書なし侍ざるをわか神官どちは
いふもさらなり。僧侶の中にもきまつたへ
かたり伝へて。ふりはへ来つゝ。写させて
よ。みせてよと乞ふものゝいと多ければ
刻本として。世の中のおやしこゝろのひと
くくみせてむ。とそゝなかつひとのあるを
きくにも。さきに新聞紙にもせし三則

摘要の末に。三則譯解てふ名を揚げ

たるをおもひいでて。名を三則論題譯

解とおふせ。こたひ東京にもせし序。

教部省にまをしこひて。許可を請て

桜木に多らすることとはなりぬ。

明治六年七月

権少教正高木真蔭

三則論題譯解 上之卷

高木真蔭大人講義

真宗西派衆僧筆記

○敬神九則

敬神ノ目的ヲ。立ツヘシ。

此条ハ。神ヲ敬フニ如何様ニナシタラハ。敬ヒノ立ウヅ
ト云フ事ノ本ヲ推シ究メテ。我心ノ睨ト定メ。其ネラヒ
ヲ立ルコトヲ云訳テ。其ネラヒトハ。天地開闢ノ時ノコトヨ
リ。人ノ世トナリ。又中ツ世ノ乱レ。方今復古維新ノ御
政体ヲ弁ヘルガ。先ヅネラヒヲツケル始リデアアル。此ネ
ラヒガ付キタナラハ。次ノ条ニ移ルヘシ。

万物ノ元始ヲ。推究スヘシ。

此条ノ意ハ。万ノモノ何ヨリナレルト云フコトヲ。發明ル
ニアリ。其内万ノ物ノ中ニモ。人ト云者ハ。イカデ万物
ニ勝レタルト云コトヲ。發明スルノ条ニモ。是ヲ知ントナ

ラハ。天地開闢ノ丹高^{トキ}高原ニナリマセル。天御中主神。

以下三神ノ御ワケ合ヲ伺ヒ。次デ^{クニノトヨダチ}国之常立神ヨリ。諾冉^{ナキナヒ}

ノ二柱ノ神ニ至ル迄ヲ。能々讀ミ味ヒ。次ニ西洋ノ究理

ニ亘リ。空氣ノ素タル。酸素。窒素。炭素。水素ノ四元

素ヲ知り。天文論ニ至リ。地動天動ノ兩説ヲ弁シ。博物

学ニ至リテ。天地間万類ヲ穿鑿シテ。其本ヲ推究ルヲ云

ナリ。

造化三神ノ功德ヲ。知ルヘシ。

此条ハ先キニイヒシ。天御中主神高皇產靈神。神皇產靈

神ノ神々ヲ。造化三神ト云。此三神ヨリシテ。若^{ワカムスヒ}產靈。

足^{タル}產靈ナド云。種々ノ產靈ノ神成リ坐シ。又少彦名神ナ

ド頭レ坐シ。諸ノ物ヲ造リ。諸ノ業ヲ初メ玉ヒケルヲ

知ルナリ。

造化三神ノ功德ヲ知ン為。我古伝ヲ暗記シ。又海外各国

ノ履歴ヲ。知ルヘシ。

造化三神ハ上ノ如シ。其御功德ヲ知ンニハ。我古伝ヲ暗

ニ覚エテ。能々勤味スヘシ。サテ古史ノ現ニ存在スル

ヲ。暗^{ソツ}覚エセヨトハ。何ナルヲナレハ。書物ヲ見レハ飾

リガ。タントアリテ。誤ルヲ多カレハ。古ヨリ云伝ル

マ、ニ。言^{コト}靈ノサチハフ国。言玉ノタスクル国ト。神ナ

ガラニ。暗^{ソツ}ラデ覚エネバナラヌ訳。又海外云々ト云フハ。

国ノ事バカリ知テ居レハ。心ガ小クテ。万国付合程。

心ガ大クナルモノナレバ。余所ノ国々ノイモ。広ク見

テ。各国ノ關ケタルサマナドハ。能々心ニ記シ。考^{コラ}ヲ擬

シテ。我國ノ助ケルナサント。心掛ヨト云条也。

天神地祇ノ靈蹤ニ則リ。公明正大ノ理ヲ。講スヘシ。

天神地祇ノ靈蹤ニ則リトハ。現在神ノ有ルヲ知リ。其

神ヲ正目^{マサメ}ニ祝ルゴトク。思ヒトリ。其神ノ御蹤ノ。残り

テアルヲニ。ヨリテト云フ也。其残りテアルト云ハ。常

陸国鹿島郡大洗磯前^{オホホシイソノサキ}薬師菩薩神社。大神ト延喜式ニ見エ。

出雲国ノイフヤ坂。日向国霧島山。高千穂ノ峯ナド。今

モウツ、ニ。見奉ル如キヲ指ノ。靈蹤トハ申ス也。則ル

トハ。依奉ルト云フニテ。公明正大トハ。各宗各派。彼レ

我レノ見ナク。国ノ為。道ノ為。心ヲ尽シ。神理ノ云何^{イカン}

ヲ伺ヒ。之ヲ思ヒ之ヲ思ヒテ。其理ヲ講セヨト。云フナ

リ。

神ニ善惡智愚アルノ所以ヲ。講スベシ。

神ト云ハ。必ス善神ノミニ非ス。又人ニ劣レルモ。不^{スナナカ}少^{ラザル}也。本居翁ノ歌ニ。

をぢなきがまくる思ひて神といへど人にかたずと云
ふが愚かさ

神といへば皆等しくや思ふらむ鳥なるもあり虫なる

もあるを

いやしけど^{イカフツチノダマ}雷樹靈 狐 虎 竜のたぐひも神のか

たはし

ト云ハレ。欽明紀ニ。狼ヲ真神ト云ヒ。万葉集。大口ノ

真神^{マカミ}ノ原云々ト云ヒ。又唐土ノ虎チフ神ト。云ヘルコモ

アリ。其他狐狸ナンドモ。其恠キ業スルヲ指ソ。神ト云

コモ。古ヘ風リニ。言ヒ習ハセリ。然レ尼恠キヲ以テ。

神トスルニ非ス。恠キ業ガ即神也ト云意也。万葉集ニ。

神龜母^{カメノハハ}新代登^{ニヤト}アル。恠トハ違フ也。其上善神ヲ指ソ。産

靈ノ神ト云ヒ。天照大御神^{アマテラス}杯^ハト云ヒ。惡神ヲ指ソ。大禍

津日。八十禍津日ト云アリ。其惡ヲ直ス神ヲ。神直日。

大直日ト云ヒ。又伊豆能女^{イヅノメ}ノ神ト云モアリ。其智ナル神

ヤ。幽冥ノ上ニシ。其愚ナルヤ。大祓詞ニ語問志磐^{コトヒシシイハネ}根樹^ネ

根立草之垣葉^{ネタチ}語止^{コトト}アリシ如ク。草木ノモノイヒシ

ヨリ。狐狸虎狼蛇ノ類。皆其中也。風ヲ起スベキ。勢ヒ

アル虎モ。炮丸一発下ニ。斃ル、類ノ訳ヲ。能考へ。能

思ヒハカルコノ所以ヲ。講スルト云コナリ。

田中頼庸云。今日敬神ヲ説ク勉ハ。造化三神天照大

神ヲ初メ。凡祀典ニ列スル。諸神及産土神氏神等ヲ

敬スルノ意ニテ。本居翁ノ汎^汎ク。神ノ名義ヲ解カレ

タル説トハ。差異アリ況^況テ此書タルヤ。説教ノ意ニ

テ書キタルニ。カ、ル学問上ノ論ハ。反テ衆庶ヲ迷

ハスニ至ルベシ。云々

真蔭答云。素ヨリ然ナレト。方今ノ民庶。智識ナケ

レバ。神異ヲ語ルニ。愚ナルコノ多カルヨリ。性理

ノ説。其虚ニ来シ。本教ノ要ヲ目シテ。荒唐不經ノ

談ト云フモノ少カラス。故ニ此問題ヲ拳テ。彼性理

ノ邪ヲ。未然ニ防キ。智識開達ノ日ヲ待チ。敬神ノ

意ヲ。堅固ナラシメント欲スルノミ。

誠ハ神賜ナリ。誠ヲ尽スハ。神意ニ准フト云理ヲ講ソ従

前俗神道家ノ僻説ヲ。看破スヘシ。

此ノ条ハ。我心ヲ云条ニシテ。唐人ノ性ハ善也ナド、キムルハ不有トニテ。心性ハ。此方ヨリ善トモ惡トモ。キハムベキニ非ス。善惡邪正。産靈ノ神ノ御心ニ在リ。故ニ哥ニ。君見レハ産靈ノ神ゾ。怨メシキ。ツレナキ人ヲ。ナニ作りケン。箇様ニ。何トノ議論モ神ノミウヘ。再説産靈ノ神ノ御事ヘ及ヘシ。再言ヘハ。神在隨ト云ナリ。蓋産靈ノ神タルヤ。天地ヲ成シ。人ヲ作り。所有モノヲ成シ玉ヒシ。大御神ニ在セバ。我ヨリ之ヲ敬ヒテ。誠トスベキヨリハ。世ニ名クベキトモナキト云ヲ知ラハ。即誠ハ神ノ賜ト云トニ。オツメリ。其誠ヲ尽スハ。誠敬ヲ尽ニシ。即チ神ヲ齋キ祭ルノ大本トナル義也。其義ヨリシテ推シ及ボサバ。神ハ心也。神トハ虚靈也ナド云。水月鏡花ノ無識性ニ。陥ツベカラズ。抑神ノ敬フノ条ニ於テ。虚無ノ論ヲ廢シ。実体現存ノ有識見ヲ以テ。之ヲ講セズンバ。心ダニ誠ノ道ニカナヒナバ。祈ラズトテモ。神ヤ護ラン。又身ハ社。心ニ神ノアルモノヲ云々。何祈ルランナドノウルサキ説ニハ。惑ハサル、ナ

リ。從來俗神道家トイヘルアリ。此派ハ。卜部家ニシテ。吉田家。唯一神道者流ヲ云ナリ。此神道ノ趣ヲ以テ論スレハ。眞言新義。其六ニ居リ。儒其三ニ居リ。神其一ニ居リ。其神モ亦。神秘。々伝。口訣ト稱シ。一ツモ神隨ノ体ヲ奉ゼザルナリ。詳ナルハ。吉見氏ガ弁抄。平田翁ガ俗神道大意ニ就テ見ルベシ。又垂加流ト云アリ。山崎闇齋開クトコロ。谷重遠等伝ル処也。西土ノ易ヲ以テ。我神道ヲ開クモノ也。其説吉田者流ト比スレバ。高尚ニシテ。識者トイヘ凡又惑フモノ也。ヨクセズハ神ヲシテ。悉皆善神トシ。神ハ洪福ヲ与フルモノトスルノ惑ヲ生シテ。事故ナク。洪福ヲ祈リ。疾病ヲ治サンヲ乞ヒ。識者モ亦頑民ニ変スルニ至ラン。孔丘モ。非其鬼祭之詔也ト云ハズヤ。是国ヲ害スルノ第一。又敬神ノ条下ニ。弁ゼズンバアルベカラザル義也。

田中頼庸云。人ヲ万物ノ靈長ト云フ所以ハ。造化大神ヨリ。本分ノ善ヲ賦生給ヒ。禽獸蟲魚ニ勝レテ知識ノ妙ヲ授給ヘルヲ以テナリ。故ニ人ハ造化大神ノ賦生玉ヘルマ、ニ。本分ノ善ヲ尽スハ。玉ヲ磨テ光

ヲ発スルガ如シ云々。玉ハ我ニ固有スル物ナレモ磨カザレバ。本分ノ光ヲ發スルコトナシ。善モコレニ準テ知ルベシ。若シ善惡邪正ハ。神ノ心ニアリトセバ。所謂性善惡相混。性不_ニ是善_ニ不_ニ是惡_ニノ說ニ近クン。幽冥ノ賞罰モ。空事ニ屬ストヤイハン云々。然ルニ。下卷天理ノ条ニ。予カ說ト同旨ヲ載タレバ。此条ハ一時ノ説話ニシテ。素ヨリノ完説ニハ。非ルニヤトゾオモフ。

真蔭答云。蓋本教ノ旨トスルハ。惟神ト云ノニテ。外国ニ天法トモ。ラヂカルナチュール云ヒ。人ノ強チニ極ムルハ。所謂神慮ヲ憶度スルニテ。惟神ノ大道ニハ適_カハズ。然ルノ今古宋儒ノ説行レ。性善ノ論起リ。又性惡ノ説モ邂逅_{オヤヤカ}云フモノアリテ。終ニ互相。分歧迷惑ヲ生セリ。コレ我惟神ノ教ヲ忘レタルニヨレバナリ。故ニ此条ニ其惑ヲ解シタメ。世間万有ノ事務。一切神慮ニアリトス。然レドモ。強チニ云ハミ。性ハ善ナルベシ。於是下卷ニ。推考ノ説ヲ挙タルナリ。畢竟此条ノ所説ハ。性ノ本分ノ体ヲ論

シ。下卷ハ本分ノ用ヲ。説キタルナリ。宇宙間ノ理ヲ講スベシ。

天地ノ間。風ハ何ヨリ成リ。雨ハ何ヨリ生シ。又美濃ノ地方等。天将_{アマ}ニ晴ントス。雲必東ス。其理果_ナク云何。火又何ヨリ生シ。水又何ヨリ成ル杯_ハ。森羅万象ノ理ヲ考究_ス。順次神ノ功德ニ及ボスヘシ。

上神祇ノ恩頼ニヨリ。生々化育ノ理ヲ弁明シ。下愛國ノ念ヲ起シ。我國体如何ヲ講スベシ。

此条ハ産靈神ノ御恩頼ニテ。食ル物ハ若産靈。又豊受姫大神。木ヲ茂ラシマスマヤ山祇神。水ノ屈曲シ。船筏ヲ通ハセマシヤ。瀬織津姫神。大海原ヲ守ラシマシヤ。綿津見神。國々活性アルヤ國靈神ナド。數ヘ尽サレヌ程ノ神々ノ御庇_{カケ}ニヨリ我モ人モ。豊カニクラセルコトヲ思ヒ出テ。其神々ノ御功績_{イサツ}ヲ。我モ弁ヘ人ニモ教ヘテ。其御恩ヲ謝シ奉ルガ。人タル者ノ当然ニシ。抑人トシテ。恩ヲ知ラザルハ人ニ非ス。今日衣食住ヲ始メ。万類我用ニ適ヒ。我ヲ助ケ玉フ恩頼ヲ知ラデ。争カ我ハ人也ト。アツ

カマシクモ云ベケンヤ。是上神祇云々ノ論也。下愛國云

々ト云ルコトハ。愛國トハ國ノ為ニスルト云フニシテ。此語西洋書ヲ。支那ニテ訳セシ書ニ。往々見ラル中ニ。詳ニ出タル処ハ英國伝道教師兼醫師合信氏ガ。清國ニテ著ハセシ。解剖書。全体新論ノ坤卷ノ末。靈魂妙用論ニ出タルヲ以テ。其引証トスル方ヨシ。然ル此書。彼國伝道教師ノ書ナレバ。外教不^レ少^ク之ヲ取ントノ彼ニ惑フ^{コト}勿^レ。其書ニ云。愛國指君臣僚友人而言トアリ。然ハ國ノ為。君ノ為ニ思ヒラ起サネハナラヌト云志ヲ立テ

、。其國ノ^{コト}ヲ知り我國ト比ヘ合セテ。我國ノ本トスル所ヲ考レハ。君アリテ國アリト云ヘル^{コト}ニシ。國ハ諾冉ノ二柱ノ神。國靈ノ神ト云神ヲ生ミツケ置セ玉ヘル^{コト}ヲ知ルベシ。其事ヤ古事記ノ中ニ見エストイヘ^ル。淡道之穂^{アハチノホ}ノ狭別^{アワビ}。又伊予國ノ愛比売^{エヒメ}。栗國ノ大宜都比売^{オホキナヒメ}等出タルハ。穂之狭別。愛比売。大宜都比売トハ。各國ノ國靈ノ神ト云フニシ。書紀ニ山ヲ生ミ。川ヲ産ミ。次ニ草木ヲ生ムトアリテ。又木ノ

田中頼庸云古語拾遺ニ神武天皇ノ時皇天ニ祖テ詔命ニ從テ神籬ヲ建テ祭給ヘル神等ノ中生島是大八洲之靈今生島及所奉齋也云々
延喜式云生島能御坐能辟竟奉皇神等能前尔白久生國足國登御名者白氏辟竟奉者皇神能敷坐島能八十島者谷蟻能廣極蟻沫能留限狹國者広久岐國者平久島能八

十島國事無皇神等能依志奉故皇御孫命能字豆乃幣用乎辟竟奉久宜
神句々^{ノノチ}。廼智^{カヤ}。草ノ神鹿屋野姬等トアリ。又古事記上ノ末ニ。大國主ノ神ノ頭^{アタマ}國靈^{クニタマ}神ト申セリ。此ウツシトハ。現在ノ^{コト}也。此現ハ先ノ國靈神ノ幽ニ對ヘタル名ナルヲオモヒ。ナホ此外延喜式ニ。大國靈ノ神社ナルモ見エタリ。國々ノ風土記ニモ。又シカ^カト云神社見エタリ。之ニ因リテ思ヘハ。我國ハ神ノシラシ、國ニシテ。世界ノ始メト云ヘルコトヲ体認シ。又神國タラン理ヲ明カニセン^{コト}ヲ勤メテ。其理ヲ講スルニ至リテハ。次ノ条ニウツルヘシ。

田中頼庸云。瀬織津比売ノ船筏云々ノ説イカ、ナリ。
田中頼庸云愛國ノ語。持統紀又基經大臣ノ表ニモ見エ。其外愛國ノ熟字コソナケレ意ヲ述タル歌ハ甚多シ漢籍ニテハ苟悦カ漢紀ニ始テ見エタリ

○愛國七則
天地剖判ノ理ヲ。弁明スベシ。
天地開闢ノ^{トキ}片國之常立神ト云神アリテ。地球ノ出来シ基

礎ヲナシ玉ヒシナリ。故ニ国之常立神ト云ヲ名ニハ。オ
ヒマセルニテ。又詳言ハ国之ハ字ノ如ク。常立トハ底
立ト云フニシテ。田ナンド。地面ノ高キヲ下ルヲ。底下
ケトイヒ。高クスルヲ。底上ケト云。常ハ即チ底ニシ
テ。カキリアルコヲ云ナリ。此国ノ限リヲ。持チ在ス神
ナレバ。国ノ常立ト云。此国ノ限リアルヲ。組
ミナサントテ。顕ハレ在ス神ヲ。豊斟淳神ト云。クンス
トハ。クミス。即組主ト云フ義ニシテ。「クミ」「クム」
「クマン」ト。活ク語ヲ。イヒスエテ。体言トハナセル
語也。次ニ泥土煮神沙土煮神ト云ハ。其清メルハ上リ。
濁レルハ沈ミ。カヒデハ。深ク泥ニシテ。即字比地適上神スヒ
始テ国土
ヲナシ。次ニ活杙神。角杙神出世アリテ。活杙神ハ。活
氣ヲ主トリ玉ヒ。角杙神ハ。万物ノ活気成テ。出ントス
ルコト司リ坐ス。即チアシノツノクムナドニ付テモ思フ
ヘシ。此神徳広ク禽獸虫魚草木金石等ノ上ニモ幸ヒ玉ヘ
リ。尚詳ナルコトハ。真蔭別ニ考アリ。ソハ我著ハシ、恩
頼ト云ニ就テ見ルヘシ。又本居翁ノ著書。三音考ト云ル
書ニテモ翫味スヘシ。其他種々ノ神ノ御上ヲモ。言ハデ

適ハヌコナガラ。コト長ケレバ之ヲ略ス。委クハ古事記
伝ニ就テ。其深意ヲ曉ルヘシ。是ヲ即天地剖レシコトヲ。
明ニストハ云ナリ。

天孫降臨。更ニ国ヲ建玉ヒシ所以ヲ。知ルベシ。

先ニイヒシ。角杙。活杙ノ神ヨリシテ。人ヲ始メ種々ノ
モノ成リ。国ト云ルモ。潮沫ヤ土カヨリテ出来タデ。ソ
レニ神モ住ミ玉ヒ人モ住メルヲ。高天原ヨリ視下ケ玉
ヒ。葦原中国ハ伊多久喧ギテ。国ノ不治ヲ歎キ玉ヒ。更
ニ天之忍穗耳尊ヲ降シ玉ハントテ幾年ヲ経。瓊々杵尊ア
モリ在セルコト。又瓊々杵尊ノ皇后ハ。木花之佐久夜毘売
ト云テ。山祇ノ御女也。天津日高彦火々出見天皇ノ皇后
ハ。豊玉姫トテ。海神ノ御女也。神武天皇ノ皇后ハ。媛
踏躡五十鈴姫命トテ。国ツ神八重事代主神ノ御女ナリ。
サテ此三柱ノ神ノ皇后ハ。山海里ノ神ノ御女ナリシ故
ハ。事長ケレハ他日云ントス。又神武天皇御東征ノ故
モ。事長ケレハ之ヲ略ス。古事記伝十九卷ヲ味ヒ。兼テ
書紀。大日本史。又尾張権大納言義直卿ノ著シ玉ヒシ。
類聚日本紀ニ就テ見ルベシ。

田中頼庸云。鵜草葺不合尊ノ皇后モ。海神ノ御女ナリ

万国一祖ノ観ヲ。開クベシ。

各国知愚ノ論ヲ。立ヘシ。

往昔ノ蒙昧。今日ノ文明ニ変セシ所以ヲ。弁ズベシ。

昨日ノ遊惰愚痴モ。心性ノ琢磨ニヨリテ。今日ノ勉強智識トナリシ。古人ノ履歴ヲ。知ルベシ。

此三条ハ同様ナルヲ。割テ三条トナセシ故ハ。先ノ本論。万国一祖云々ノ論ニヨリテ。教職タルモノヲ勉策シ。又聴衆ヲ感憤セシメテ。今日迄文明ニ至ラザル国ヲノ。文明ノ域ニ進メ。我国ヲノ弥富強ノ国トセンコトヲ欲シ。又教職ノ習奨論ヲ拆ンガ為。昨日ノ遊惰云々ノ条ヲノベ。国ノ善悪ヲ云ントノハ。各国知愚ノ論ヲ立テ。益今日ノ世勢ヲ発揚シテ。他日其盛大ヲ期セン為。往昔蒙昧云々ノコトヲ云也。此三条ハ識者ニ当レ

ハ。縦横ニノ説クベキ語ト思フナリ。尚云ベキコト多クレ也。詳細ハ他日弁スベシ。

愛家愛己ノ勉強。即チ愛國ニ適フト云理ヲ。知ベシ。

愛家トハ家ノ為。愛己トハ己ノ為也。全牀新論ニ云。

曰ニ愛家一指ニ父子兄弟夫婦奴僕ニ而言。曰ニ愛己指ニ凡保顧一己之私トアリテ。且ケ暮レ勉強ノ事ヲ作セバ。

神之ニ賜フニ。洪福ヲ以テ。其家ヲ潤ホシタマフコトハ

勿論。人ノ世ニ生ル、ヤ。勉強スルヲ以テ職トス。故

レ坐食スルモノ。是人ニアラスノ唯禽獸耳。己レヲ勤

メ。其家ヲ治ム。即チ国ヲ治ムル本ニシテ。唐人モ治

国平天下ハ修身齊家ヨリスト云ニ非ヤ。即是愛國ト云

理ナレバ。尚之ニ適宜開導ノ法ヲ設ケテ以テ衆庶ニ其

理ヲ。講スルヲ要トスル也。